

# 幕屋の 貴い宝石

B. R. ヒックス



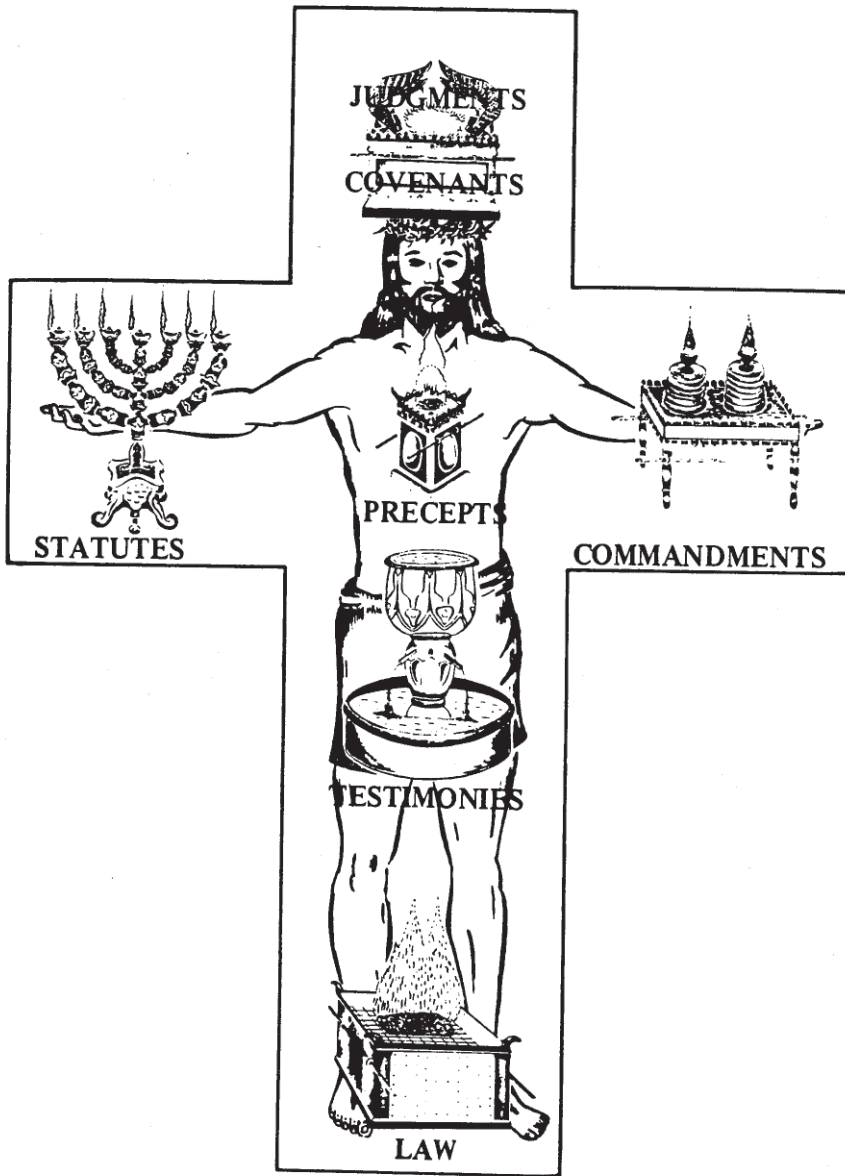
Jeffersonville, Indiana

Christ Gospel Churches Int'l., Inc.

P. O. BOX 786

Jeffersonville, Indiana 47131-0786

Copyright  
Christ Gospel Churches Int'l., Inc.  
P. O. BOX 786  
Jeffersonville, Indiana 47131-0786  
1961



## 訳 注

- (1)本文中で太字となっている部分は原著者が大文字または太字を使用している部分である。
- (2)本文中で斜体字となっている部分は原著者が斜体字を使用している部分である。

# 目 次

| ( 章 )  |                   | ( ページ ) |
|--------|-------------------|---------|
| 第 1 章  | 幕屋を学ぶ理由           | 9       |
| 第 2 章  | 庭の柱               | 13      |
| 第 3 章  | 庭 ( 続き ) 、庭の掛け幕   | 25      |
| 第 4 章  | 庭の門               | 33      |
| 第 5 章  | 青銅の祭壇             | 42      |
| 第 6 章  | 洗盤                | 66      |
| 第 7 章  | 幕屋の板と横木           | 75      |
| 第 8 章  | 幕屋のおおい            | 91      |
| 第 9 章  | 天幕の入口             | 118     |
| 第 10 章 | 香の壇               | 129     |
| 第 11 章 | 燭台                | 174     |
| 第 12 章 | パンの机              | 206     |
| 第 13 章 | 垂れ幕               | 221     |
| 第 14 章 | 契約の箱              | 230     |
| 第 15 章 | 宿営の配置と公衆衛生の規則     | 247     |
| 第 16 章 | 大祭司とその装束          | 264     |
| 第 17 章 | 五つの偉大ないけにえと祭司の聖別  | 310     |
| 第 18 章 | 聖なる注ぎの油によるアロンの油注ぎ | 351     |
| 第 19 章 | 雲の柱               | 360     |

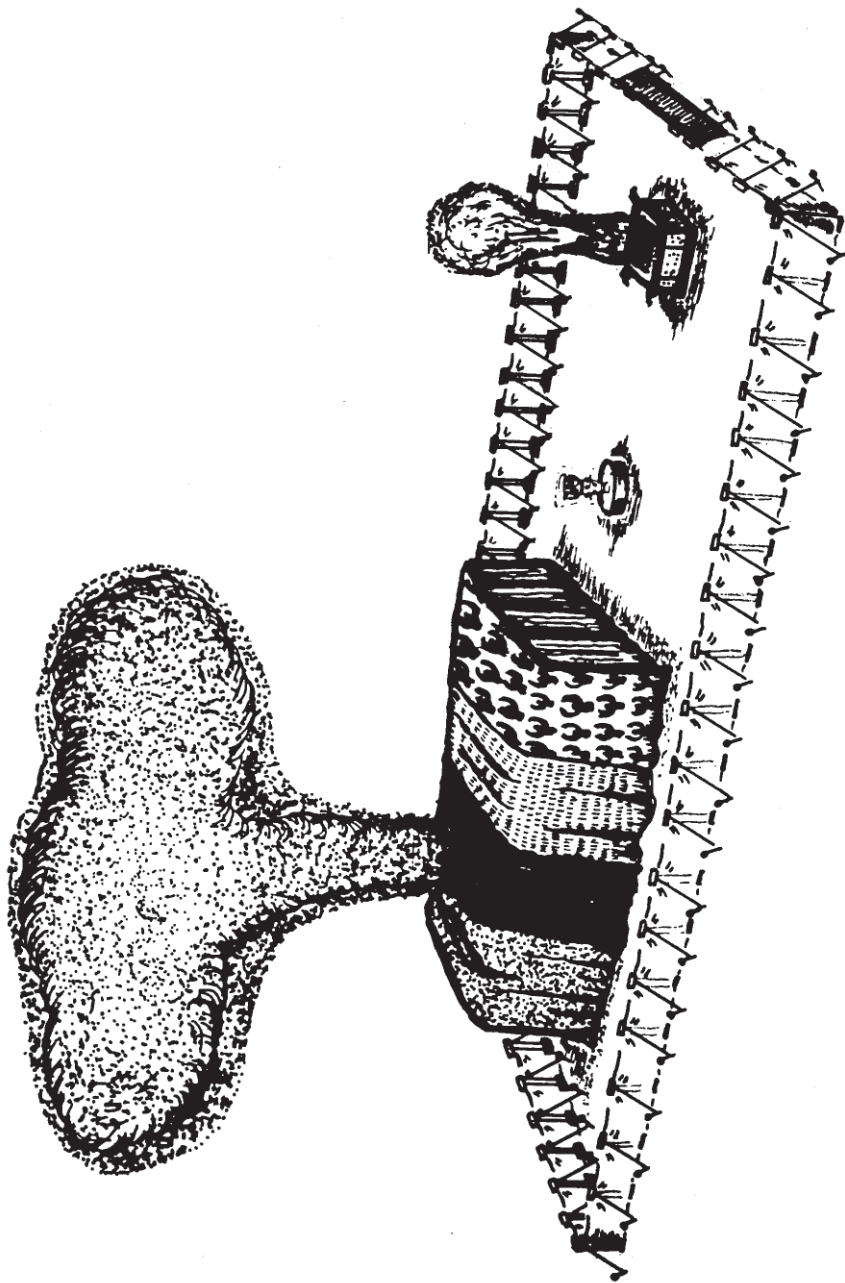
## は じ め に

こうして、キリストご自身が、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を伝道者、ある人を牧師また教師として、お立てになったのです。それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためであり、ついに、私たちがみな、信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し、完全におとなになって、キリストの満ち満ちた身たけにまで達するためです。  
(エペソ4:11-13)

尊い主イエス・キリストの足元に座り、旧約聖書の幕屋に輝かしく啓示されているキリストの身丈について長年、**主ご自身**から学ぶ特権にあずかることができたのは、私にとって大変幸いなことでした。この幕屋の知識がなければ、私たちは、使徒パウロがエペソで語っている完成の全き計画を知らずに過ごすことになってしまいます。しかし、この計画を知るなら、霊の目に絶えず油が注がれ、キリストのうちに神が隠された新しい高さや深さが見えるようになります。そうして、私たちは霊的自己満足と霊的自己義から自分を聖め、キリストの身丈のうちに、より完全に、より豊かに成長し続けることができるようになるのです。

この本は、私の心のうちに主が恵み深く与え、生かして下さったいくつかの真理を分かちあうようにという主の仰せに従って書かれました。主は、この本が、間近に迫った主の栄光からの帰還を待ち望み、準備を整えて婚礼衣装を着たいと願っている人々の心を祝福すると約束して下さいました。読者の皆さんの一人一人が**主イエス・キリスト**に対する新しい幻とより大きな愛を受けられることを、切に祈り望みます。

著 者







# 幕屋の貴い宝石

## 第1章

### 幕屋を学ぶ理由

#### I. 幕屋はイエス・キリストの身丈を象徴している

パウロはエペソ4章13節でキリストの身丈についてふれていますが、聖書の中で旧約聖書の幕屋ほど、その身丈に関する真理の貴い宝石、すなわち、その完全な姿をよく表している所は他にはありません。13節には「ついに私たちがみな、信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し、完全におとなになってキリストの満ち満ちた身丈にまで達するためです。」とあります。また、パウロは、幕屋を来たるべきキリストの天上のものとその務めの象徴、型、比喻として言及しています。

これによって聖霊は次のことを示しておられます。すなわち、前の幕屋が存続しているかぎり、まことの聖所への道は、まだ明らかにされていないということです。この幕屋はその当時のための比喻です。それに従って、ささげ物といけにえとがささげられますが、それらは礼拝する者の良心を完全にすることはできません。

(へブル9:8,9)

幕屋はイエス・キリストの描写あるいは、象徴なので、主のみことばの幕屋の部分に熟慮するならば、必ず多くの霊的啓示の宝石を発見することができます。

#### II. 幕屋は神のご計画であった

神は、出エジプト記で、山で示されたとおりに幕屋を作らなければならないと四回モーセに念を押されました。(出エジプト25:9, 40, 26:30, 27:8) この計画は、建築家であられる神ご自身によってその御子イエス・キリストを完全に啓示するために立てられたものです。ですから、当然、幕屋は、私

たちに靈感を与え、私たちの魂のうちに幕屋と同じ姿、すなわち、キリストの似姿を持った霊の建物が成長するためには、どのように主の御霊と尊いみことばに従ったらよいかを、私たちに教えることができるのです。

### Ⅲ. イスラエルが幕屋を必要としていた

イスラエルは、長い間神を離れ、神の光と啓示なしにエジプトの暗黒の地にとどまっていた。イスラエルは神の選民であったにもかかわらず、罪深く、神に近づく道を必要としていました。神はその偉大な愛のゆえに、幕屋を通して、ご自分の臨在に近づき、ご自身と交わる道を啓示されました。もし私たちの心が謙虚で教えを受けられる状態であるなら、私たちは、神と共に歩いてきた人、あるいは神と共に歩いてきた国民からいつも何かを学ぶことができるはずで

### Ⅳ. 主のみことばの多くの部分が幕屋にささげられた

神がみことばの何章をもこの一つの建物のために割かれているのですから、私たちは霊的好奇心がそそられ、その重大性を発見したいと思うべきでしょう。みことばは私たちに「聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。」(Ⅱテモテ3:16)と語っています。ここに、なぜ私たちがみことばを創世記から黙示録まで学び、吸収するべきかという4つの優れた理由が挙げられています。それは、(1)教えのため、(2)戒めのため、(3)矯正のため、(4)義の訓練のためです。

### Ⅴ. 新約聖書をより明確に理解する

新約聖書には、幕屋の部分に言及したり、幕屋の部分からの引用が多いために、旧約聖書の幕屋を勉強しないとはっきり理解することができない箇所が多々あります。幕屋は神の御子の象徴ですから、聖書の他のすべての部分を幕屋に適合させることができます。聖書はすべて主イエス・キリストを啓示するために与えられているからです。